



わらの扱いは難しい？



講師の手塚さん



立派なしめ飾りでみんな笑顔に

この教室は、新年を手作りのしめ飾りで迎えるため、毎年12月に開催され、今年は12月18日（火）の午後1時30分から、9名の参加での開催となりました。講師は、造園業を営む手塚喜家さん（喜多蔵）。参加者全員がブルーシートの上に乗り、手塚さんの指導のもと、わらを手に飾りを作り始めました。途中、三つ編みの工程では、なかなか思い通りにいかず、何度もやり直す人もいましたが、作り始めから1時間30分が過ぎる頃には、しめ飾りが出来上がりしました。受講者の高山弘二さん（十沢）に聞きました。

Q 参加した理由は？
A 広報にっこうで教室のことを知りました。毎年しめ飾りを
Q 作り終えての感想は？
A 皆さんで和気あいあいと作ることができ、楽しかったですね。先生も丁寧に教えてくれて、なかなか良いしめ飾りが出来たと思います。
実は、公民館の教室に参加するのは初めてでしたが、とても楽しかったので、これから他の教室にも参加してみたいかなりました。
出来たてのしめ飾りを手に、受講者全員で記念撮影をしましたが、立派なしめ飾りが並びました。自分で作ったしめ飾りで迎える新年は、とても気持ちのいいものでしょう。

②しめ飾り教室（豊岡公民館）

参加者の声でつなぐ

公民館の教室・講座紹介

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内 2388-3 TEL：50-1200
ホームページ http://www.khmoan.jp/

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

市民割引券

（1枚につき、5名様まで有効）

小杉放菴記念日光美術館

切り取ってご利用ください

スピーカーの名機「タンノイ・オートグラフ」で楽しむオーディオ・コンサート〈音で辿るジャズの歴史〉

美術館は、おととしから、オーディオ愛好者の憧れの的であるスピーカーの名機「タンノイ・オートグラフ」を使用して、レコードやCD音楽を楽しむ集いを開催しています。

今回は、うつのみやジャズの街委員会会長であり、栃木県を代表するジャズ・ビッグバンド、スウィング・ハード・オーケストラの吉原郷之典氏による選曲で、ジャズの歴史をたどります。響き渡る音色を、じっくりとご堪能ください。



タンノイ・オートグラフ

と き：2月23日（土）午後6時開演（午後5時15分開場）
選 曲：吉原郷之典氏（うつのみやジャズの街委員会会長）
参 加 料：500円（飲み物付き）
参加方法：美術館へ電話で申し込む

◆展覧会「日光市新収蔵記念 美しき日本の風景 国立公園の絵画展」（後期）
会 期：2月23日（土）～4月7日（日）
休 館 日：毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は開館し、翌日を休館）
開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入 館 料：一般…700（300）円、大学生…500（200）円、高校生以下…無料
※（ ）内は市民割引券を利用した際の料金です。

KOSUGI HOAN
MUSEUM OF ART,
NIKKO

小杉放菴記念日光美術館

市民文芸

川 柳 選者 山本都留米

健康法サプリメントは日向ほこ 白土武夫

オレオレに親子の絆試される 青木照雄

お年玉指折り数える孫や子ら 植田義雄

孫来る日財布のひもをちとゆるめ 山越あきの

除夜の鐘「ボケ」と聞こえる歳になり 渡辺春男

明暗を分けた一言こびりつく 塚原トモエ

おひな様無言で贈る美と平和 大堀満

俳 句 選者 伊藤清

旅の宿お喋り止まずみかん剥く 渡辺ミチ子

老体の限界を揺ち寒波来る 名古屋佳月

凧やきょうも生き抜く朝茶汲む 徳本英子

二荒嶺の初冠雪の男振り 星野恒志

神ノ主も鳴虫山も眠りけり 白土武夫

友来る小春日和のティータイム 星野シズ

松に菰巻いて寒波を断ちにけり 酒井智恵子

歴史民俗資料館通信

日光市中央町29-1（市図書館隣） ☎0286-217
開館時間 午前9時～午後6時（入館無料）
休館日 毎週月曜日、祝日



◆企画展紹介⑩「江戸時代の村をみてみよう」（その3）

●検地帳・名寄帳
検地帳とは、領主が村単位に実施した検地（田・畑・屋敷の実測調査）の結果を記載した帳簿です。実測した1筆ごとに字名、縦横の間数（長さ）、等級（上・中・下・下々）、種別（田・畑・屋敷）、面積、耕作者などを記しています。これらを耕作者ごとにまとめたのが名寄帳です。

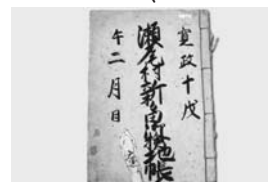
検地帳や名寄帳を見れば、村や耕作者ごとの石高（田畑などから取れる米の収穫量）や年貢負担の割合などが分かるので、現在の固定資産税の土地台帳や課税台帳にあたるものといえます。
日光神領では、寛文6（1666）年に領内の総検地が行われて



瀬尾村御検地水帳
寛文6（1666）年の写し

います。検地帳は2冊作製され、1冊は領主へ提出、1冊は村役人が保管しました。
●瀬尾村の検地帳
瀬尾村御検地水帳（写し）は、寛文検地時の帳面を基本台帳として後年に新しい耕作者に訂正して写したものです。

また、通常は以前の検地結果をそのまま踏襲していきますが、村の新たな開発を把握する必要が生じたため、瀬尾村では元禄15（1702）年に新田検地、さらに寛政10（1798）年に新々田検地が実施され、それぞれ検地帳が作られました。



瀬尾村新々田御検地帳
寛政10（1798）年

企画展開催期間：3月31日まで

◆催し◆

◆「昔の村名を読んでみよう」
コーナー・開館30周年記念コーナー・昔のあそびコーナー開催中

短 歌 選者 阿久津伸一

高空を翔けゆく雁の隊列の何という やさしき知恵の形ぞ 名古屋佳子

高速道雪超え行けば陽の眩し南の街は時間も穏しき 関根真佐子

背を丸め力なく跳ぶ雨蛙居場所の小豆皆刈られては 阿久津年秀

二荒の社に冷氣漲りて拍手の音四方にしみいる 北崎君

修験者の歩きし道を踏みしめてまだ雪残る杉木立行く 桜沢総一

脈々と歴史を重ねし老舗さえ時代の波に抵抗できず 青木照雄

多難なる年も過ぎ去り元旦に平和を願うご来光拝す 植田義雄

作品を募集しています！

川柳・俳句・短歌を募集しています。氏名（ふりがな）、住所、電話番号を明記して、郵送またはFAX、メールでご応募ください（二重投稿は不可）。
なお、作品中の漢字には、ふりがなを明記してください。
応募先及びくわしくは
秘書広報課 広報広聴係
☎（21）5135・FAX（21）5109